

Keyence イーサネットドライバー

© 2021 PTC Inc. All Rights Reserved.

目次

Keyence イーサネットドライバー	1
目次	2
Keyence イーサネットドライバー	4
概要	4
設定	4
チャンネルのプロパティ- 一般	4
チャンネルのプロパティ- イーサネット通信	5
チャンネルのプロパティ- 書き込み最適化	5
チャンネルのプロパティ- 詳細	6
デバイスのプロパティ- 一般	7
動作モード	8
デバイスのプロパティ- スキャンモード	8
デバイスのプロパティ- タイミング	9
デバイスのプロパティ- 自動格下げ	10
デバイスのプロパティ- 通信パラメータ	10
デバイスのプロパティ- ブロックサイズ	11
デバイスのプロパティ- 冗長	11
タグのプロパティ- 一般	12
タグのプロパティ- スケール変換	13
データ型の説明	14
KV シリーズのアドレス指定	15
イベントログメッセージ	21
デバイスのアドレスを読み取れませんでした。 アドレス = '<アドレス>'。	21
デバイスのアドレスブロックを読み取れません。デバイスがエラーを返しました。 アドレスブロック = '<アドレス>' から '<アドレス>'、エラーコード = <コード>。	21
デバイスのアドレスブロックを読み取れません。 アドレスブロック = '<アドレス>' から '<アドレス>'。	21
デバイスのアドレスを読み取れませんでした。デバイスがエラーを返しました。 アドレス = '<アドレス>'、エラーコード = <コード>。	22
デバイスのアドレスに書き込めません。 アドレス = '<アドレス>'。	22
デバイスのアドレスに書き込めません。デバイスがエラーを返しました。 アドレス = '<アドレス>'、エラーコード = <コード>。	22
デバイス応答エラーコード	22
COM ポートが別のアプリケーションによって使用されています。 ポート = '<ポート>'。	23
指定されたパラメータでは COM ポートを設定できません。 ポート = COM<数値>、OS エラー = <エラー>。	23
ドライバーの初期化に失敗しました。	23
シリアル I/O スレッドを作成できません。	23
COM ポートが存在しません。 ポート = '<ポート>'。	24
COM ポートを開く際にエラーが発生しました。 ポート = '<ポート>'、OS エラー = <エラー>。	24
接続に失敗しました。アダプタにバインドできません。 アダプタ = '<名前>'。	24
Winsock のシャットダウンに失敗しました。 OS エラー = <エラー>。	24
Winsock の初期化に失敗しました。 OS エラー = <エラー>。	24
このドライバーを使用するには Winsock V1.1 以上がインストールされている必要があります。	25
ローカルポートへのバインド中にソケットエラーが発生しました。 エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。	25

デバイスが応答していません。	25
デバイスが応答していません。 ID = '<デバイス>'。	25
チャネルでのシリアル通信エラー。 エラーマスク = <マスク>。	26
デバイスのアドレスに書き込めません。 アドレス = '<アドレス>'。	26
ドライバーがタグを処理している間はこのページ上のアイテムを変更できません。	26
指定されたアドレスはデバイス上で有効ではありません。 無効なアドレス = '<アドレス>'。	27
アドレス '<アドレス>' はデバイス '<名前>' 上で有効ではありません。	27
ドライバーがタグを処理している間にこのプロパティを変更することはできません。	27
デバイス '<名前>' 上のアドレス '<アドレス>' に書き込めません。	27
接続中にソケットエラーが発生しました。 エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。	27
データの受信中にソケットエラーが発生しました。 エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。	27
データの送信中にソケットエラーが発生しました。 エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。	28
読み取り可否のチェック中にソケットエラーが発生しました。 エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。	28
書き込み可否のチェック中にソケットエラーが発生しました。 エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。	28
%s 	28
<名前> デバイスドライバー '<名前>'	28
索引	29

Keyence イーサネットドライバー

ヘルプバージョン 1.018

目次

概要

Keyence イーサネットドライバーとは

設定

このドライバーを使用するためにデバイスを構成する方法

データ型の説明

このドライバーでサポートされるデータ型

アドレスの説明

Keyence Ethernet デバイスでデータ位置のアドレスを指定する方法

イベントログメッセージ

Keyence イーサネットドライバー で生成されるメッセージ

概要

Keyence イーサネットドライバー は Keyence KV Ethernet デバイスが HMI、SCADA、Historian、MES、ERP や多数のカスタムアプリケーションを含むクライアントアプリケーションに接続するための信頼性の高い手段を提供します。これは Keyence KV シリーズのデバイスで使用するためのものです。

Keyence イーサネットドライバー を使用すると、Keyence PLC からさまざまなデバイスやアプリケーションに接続してリアルタイムで読み取り書き込みを行うことができます。本番環境における品質 データエラーのモニターや、Keyence PLC で接続されたマシンまたはライン上にある機器の全体的な効率性の計算を、単一ソースから行うことができます。ユーザーは Keyence PLC を MES システムに接続することにより、レシピをデバイスに送信したり、その PLC からバッチ情報を読み取ったりできます。多くの場合、これらの PLC は自動ラインを制御しますが、MES 情報をスタンドアロンマシンに送信する場合もあります。Keyence イーサネットドライバー はこれらの両方の機能を提供します。

設定

サポートされるデバイス

KV シリーズ (KV-7500、KV-7300、KV-5500、KV-5000、KV-3000、KV-1000、KV-700、KV-Nano)

通信プロトコル

ホストリンク

サポートされる通信パラメータ

IP アドレス: 0.0.0.0 - 255.255.255.255

プロトコルモード: TCP/IP、UDP

ポート: 1 - 65535

受信タイムアウト: 0 - 59 秒

チャンネルとデバイスの制限値

このドライバーでサポートされているチャンネルの最大数は 1024 です。このドライバーでサポートされているデバイスの最大数は、1 つのチャンネルにつき 256 です。

チャンネルのプロパティ - 一般

このサーバーでは、複数の通信ドライバーを同時に使用することができます。サーバープロジェクトで使用される各プロトコルおよびドライバーをチャンネルと呼びます。サーバープロジェクトは、同じ通信ドライバーまたは一意の通信ドライバーを使用する多数のチャンネルから成ります。チャンネルは、OPC リンクの基本的な構成要素として機能します。このグループは、識別属性や動作モードなどの一般的なチャンネルプロパティを指定するときに使用します。

プロパティグループ	<input type="checkbox"/> 識別	
一般	名前	Channel1
シリアル通信	説明	
書き込み最適化	ドライバー	
詳細	<input type="checkbox"/> 診断	
通信シリアル化	診断取り込み	無効化

識別

「名前」: このチャンネルのユーザー定義識別情報を指定します。各サーバープロジェクトで、それぞれのチャンネル名が一意でなければなりません。名前は最大 256 文字ですが、一部のクライアントアプリケーションでは OPC サーバーのタグ空間をブラウズする際の表示ウィンドウが制限されています。チャンネル名は OPC ブラウザ情報の一部です。チャンネルの作成にはこのプロパティが必要です。

● 予約済み文字の詳細については、サーバーのヘルプで「チャンネル、デバイス、タグ、およびタググループに適切な名前を付ける方法」を参照してください。

「説明」: このチャンネルに関するユーザー定義情報を指定します。

● 「説明」などのこれらのプロパティの多くには、システムタグが関連付けられています。

「ドライバー」: このチャンネル用のプロトコルドライバーを指定します。このプロパティでは、チャンネル作成時に選択されたデバイスドライバーが示されます。チャンネルのプロパティではこの設定を変更することはできません。チャンネルの作成にはこのプロパティが必要です。

● **注記:** サーバーがオンラインで常時稼働している場合、これらのプロパティをいつでも変更できます。これには、クライアントがデータをサーバーに登録できないようにチャンネル名を変更することも含まれます。チャンネル名を変更する前にクライアントがサーバーからアイテムをすでに取得している場合、それらのアイテムは影響を受けません。チャンネル名が変更された後で、クライアントアプリケーションがそのアイテムを解放し、古いチャンネル名を使用して再び取得しようとしても、そのアイテムは取得されません。このことを念頭において、大規模なクライアントアプリケーションを開発した後はプロパティに対する変更を行わないようにします。オペレータがプロパティを変更したりサーバーの機能にアクセスしたりすることを防ぐため、適切なユーザー役割を使用し、権限を正しく管理する必要があります。

診断

「診断取り込み」: このオプションが有効な場合、チャンネルの診断情報が OPC アプリケーションに取り込まれ、サーバーの診断機能は最小限のオーバーヘッド処理を必要とするので、必要なときにだけ利用し、必要がないときには無効にしておくことをお勧めします。デフォルトでは無効になっています。

● **注記:** ドライバーで診断機能がサポートされていない場合、このプロパティは使用できません。

● 詳細については、サーバーのヘルプの「通信診断」および「統計タグ」を参照してください。

チャンネルのプロパティ - イーサネット通信

イーサネット通信を使用してデバイスと通信できます。

プロパティグループ	<input type="checkbox"/> イーサネット設定	
一般	ネットワークアダプタ	デフォルト
イーサネット通信		

イーサネット設定

「ネットワークアダプタ」: バインドするネットワークアダプタを指定します。空白のままにするか、「デフォルト」を選択した場合、オペレーティングシステムはデフォルトのアダプタを選択します。

チャンネルのプロパティ - 書き込み最適化

サーバーは、クライアントアプリケーションから書き込まれたデータをデバイスに遅延なく届ける必要があります。このため、サーバーに用意されている最適化プロパティを使用して、特定のニーズを満たしたり、アプリケーションの応答性を高めたりすることができます。

プロパティグループ	<input checked="" type="checkbox"/> 書き込み最適化	
一般	最適化方法	すべてのタグの最新の値のみを書き込み
シリアル通信	デューティサイクル	10
書き込み最適化		

書き込み最適化

「**最適化方法**」: 基礎となる通信ドライバーに書き込みデータをどのように渡すかを制御します。以下のオプションがあります。

- ・「**すべてのタグのすべての値を書き込み**」: このオプションを選択した場合、サーバーはすべての値をコントローラに書き込もうとします。このモードでは、サーバーは書き込み要求を絶えず収集し、サーバーの内部書き込みキューにこれらの要求を追加します。サーバーは書き込みキューを処理し、デバイスにできるだけ早くデータを書き込むことによって、このキューを空にしようとしています。このモードでは、クライアントアプリケーションから書き込まれたすべてのデータがターゲットデバイスに送信されます。ターゲットデバイスで書き込み操作の順序または書き込みアイテムのコンテンツが一意に表示される必要がある場合、このモードを選択します。
- ・「**非 Boolean タグの最新の値のみを書き込み**」: デバイスにデータを実際に送信するのに時間がかかっているために、同じ値への多数の連続書き込みが書き込みキューに累積することがあります。書き込みキューにすでに置かれている書き込み値をサーバーが更新した場合、同じ最終出力値に達するまでに必要な書き込み回数ははるかに少なくなります。このようにして、サーバーのキューに余分な書き込みが累積することがなくなります。ユーザーがスライドスイッチを動かすのをやめると、ほぼ同時にデバイス内の値が正確な値になります。モード名からもわかるように、Boolean 値でない値はサーバーの内部書き込みキュー内で更新され、次の機会にデバイスに送信されます。これによってアプリケーションのパフォーマンスが大幅に向上します。
 - **注記**: このオプションを選択した場合、Boolean 値への書き込みは最適化されません。モーメンタリプッシュボタンなどの Boolean 操作で問題が発生することなく、HMI データの操作を最適化できます。
- ・「**すべてのタグの最新の値のみを書き込み**」: このオプションを選択した場合、2 つ目の最適化モードの理論がすべてのタグに適用されます。これはアプリケーションが最新の値だけをデバイスに送信する必要がある場合に特に役立ちます。このモードでは、現在書き込みキューに入っているタグを送信する前に更新することによって、すべての書き込みが最適化されます。これがデフォルトのモードです。

「**デューティサイクル**」: 読み取り操作に対する書き込み操作の比率を制御するときに使用します。この比率は必ず、読み取り 1 回につき書き込みが 1 から 10 回の間であることが基になっています。デューティサイクルはデフォルトで 10 に設定されており、1 回の読み取り操作につき 10 回の書き込みが行われます。アプリケーションが多数の連続書き込みを行っている場合でも、読み取りデータを処理する時間が確実に残っている必要があります。これを設定すると、書き込み操作が 1 回行われるたびに読み取り操作が 1 回行われるようになります。実行する書き込み操作がない場合、読み取りが連続処理されます。これにより、連続書き込みを行うアプリケーションが最適化され、データの送受信フローがよりバランスのとれたものとなります。

● **注記**: 本番環境で使用する前に、強化された書き込み最適化機能との互換性が維持されるようにアプリケーションのプロパティを設定することをお勧めします。

チャネルのプロパティ - 詳細

このグループは、チャネルの詳細プロパティを指定するときに使用します。すべてのドライバーがすべてのプロトコルをサポートしているわけではないので、サポートしていないデバイスには詳細グループが表示されません。

プロパティグループ	<input checked="" type="checkbox"/> 非正規化浮動小数点処理	
一般	浮動小数点値	ゼロで置換
シリアル通信	<input checked="" type="checkbox"/> デバイス間遅延	
書き込み最適化	デバイス間遅延 (ミリ秒)	0
詳細		
通信シリアル化		

「**非正規化浮動小数点処理**」: 非正規化値は無限、非数 (NaN)、または非正規化数として定義されます。デフォルトは「ゼロで置換」です。ネイティブの浮動小数点処理が指定されているドライバーはデフォルトで「未修正」になります。「非正規化浮動小数点処理」では、ドライバーによる非正規化 IEEE-754 浮動小数点データの処理方法を指定できます。オプションの説明は次のとおりです。

- 「**ゼロで置換**」: このオプションを選択した場合、ドライバーが非正規化 IEEE-754 浮動小数点値をクライアントに転送する前にゼロで置き換えることができます。
- 「**未修正**」: このオプションを選択した場合、ドライバーは IEEE-754 非正規化、正規化、非数、および無限の値を変換または変更せずにクライアントに転送できます。

● **注記**: ドライバーが浮動小数点値をサポートしていない場合や、表示されているオプションだけをサポートする場合、このプロパティは使用できません。チャンネルの浮動小数点正規化の設定に従って、リアルタイムのドライバータグ (値や配列など) が浮動小数点正規化の対象となります。たとえば、EFM データはこの設定の影響を受けません。

● 浮動小数点値の詳細については、サーバーのヘルプで「非正規化浮動小数点値を使用する方法」を参照してください。

「**デバイス間遅延**」: 通信チャンネルが同じチャンネルの現在のデバイスからデータを受信した後、次のデバイスに新しい要求を送信するまで待機する時間を指定します。ゼロ (0) を指定すると遅延は無効になります。

● **注記**: このプロパティは、一部のドライバー、モデル、および依存する設定では使用できません。

デバイスのプロパティ - 一般

デバイスは、通信チャンネル上の 1 つのターゲットを表します。ドライバーが複数のコントローラをサポートしている場合、ユーザーは各コントローラのデバイス ID を入力する必要があります。

Property Groups	Identification	
General	Name	
Scan Mode	Description	
	Channel Assignment	
	Driver	
	Model	
	ID Format	Decimal
	ID	2

識別

「**名前**」: デバイスの名前を指定します。これは最大 256 文字のユーザー定義の論理名であり、複数のチャンネルで使用できます。

● **注記**: わかりやすい名前にするを一般的にはお勧めしますが、一部の OPC クライアントアプリケーションでは OPC サーバーのタグ空間をブラウズする際の表示ウィンドウが制限されています。デバイス名とチャンネル名はブラウズツリー情報の一部にもなります。OPC クライアント内では、チャンネル名とデバイス名の組み合わせが "<チャンネル名>.<デバイス名>" として表示されます。

● 詳細については、サーバーのヘルプで「チャンネル、デバイス、タグ、およびタググループに適切な名前を付ける方法」を参照してください。

「**説明**」: このデバイスに関するユーザー定義情報を指定します。

● 「説明」などのこれらのプロパティの多くには、システムタグが関連付けられています。

「**チャンネル割り当て**」: このデバイスが現在属しているチャンネルのユーザー定義名を指定します。

「**ドライバー**」: このデバイスに設定されているプロトコルドライバー。

「**モデル**」: この ID に関連付けられているデバイスのタイプを指定します。このドロップダウンメニューの内容は、使用されている通信ドライバーのタイプによって異なります。ドライバーによってサポートされていないモデルは無効になります。通信ドライバーが複数のデバイスモデルをサポートしている場合、デバイスにクライアントアプリケーションが 1 つも接続していない場合のみモデル選択を変更できます。

● **注記**: 通信ドライバーが複数のモデルをサポートしている場合、ユーザーは物理デバイスに合わせてモデルを選択する必要があります。このドロップダウンメニューにデバイスが表示されない場合、ターゲットデバイスに最も近いモデルを選択します。一部のドライバーは "オープン" と呼ばれるモデル選択をサポートしており、ユーザーはターゲットデバイスの詳細を知らなくても通信できます。詳細については、ドライバーのヘルプドキュメントを参照してください。

「ID」: デバイスのドライバー固有のステーションまたはノードを指定します。入力する ID のタイプは、使用されている通信ドライバーによって異なります。多くの通信ドライバーでは、ID は数値です。数値 ID をサポートするドライバーでは、ユーザーは数値を入力でき、そのフォーマットはアプリケーションのニーズまたは選択した通信ドライバーの特性に合わせて変更できます。フォーマットはデフォルトではドライバーによって設定されます。オプションには「10 進数」、「8 進数」、「16 進数」があります。

● **注記**: ドライバーがイーサネットベースであるか、通常とは異なるステーションまたはノード名をサポートしている場合、デバイスの TCP/IP アドレスをデバイス ID として使用できます。TCP/IP アドレスはピリオドで区切った 4 つの値から成り、各値の範囲は 0 から 255 です。一部のデバイス ID は文字列ベースです。ドライバーによっては、ID フィールドで追加のプロパティを設定する必要があります。詳細については、ドライバーのヘルプドキュメントを参照してください。

動作モード

Property Groups	<input checked="" type="checkbox"/> Identification <input checked="" type="checkbox"/> Operating Mode	
General	Data Collection	Enable
Scan Mode	Simulated	No

「データコレクション」: このプロパティでは、デバイスのアクティブな状態を制御します。デバイスの通信はデフォルトで有効になっていますが、このプロパティを使用して物理デバイスを無効にできます。デバイスが無効になっている場合、通信は試みられません。クライアントから見た場合、そのデータは無効としてマークされ、書き込み操作は許可されません。このプロパティは、このプロパティまたはデバイスのシステムタグを使用していつでも変更できます。

「シミュレーション」: デバイスをシミュレーションモードに切り替えるかどうかを指定します。このモードでは、ドライバーは物理デバイスとの通信を試みませんが、サーバーは引き続き有効な OPC データを返します。シミュレーションモードではデバイスとの物理的な通信は停止しますが、OPC データは有効なデータとして OPC クライアントに返されます。シミュレーションモードでは、サーバーはすべてのデバイスデータを自己反映的データとして扱います。つまり、シミュレーションモードのデバイスに書き込まれたデータはすべて再び読み取られ、各 OPC アイテムは個別に処理されます。アイテムのメモリマップはグループ更新レートに基づきます。(サーバーが再初期化された場合などに) サーバーがアイテムを除去した場合、そのデータは保存されません。デフォルトは「いいえ」です。

● 注記:

1. システムタグ (_Simulated) は読み取り専用であり、ランタイム保護のため、書き込みは禁止されています。このシステムタグを使用することで、このプロパティをクライアントからモニターできます。
2. シミュレーションモードでは、アイテムのメモリマップはクライアントの更新レート (OPC クライアントではグループ更新レート、ネイティブおよび DDE インタフェースではスキャン速度) に基づきます。つまり、異なる更新レートで同じアイテムを参照する 2 つのクライアントは異なるデータを返します。

● シミュレーションモードはテストとシミュレーションのみを目的としています。本番環境では決して使用しないでください。

デバイスのプロパティ - スキャンモード

「スキャンモード」では、デバイスとの通信を必要とする、サブスクリプション済みクライアントが要求したタグのスキャン速度を指定します。同期および非同期デバイスの読み取りと書き込みは可能なかぎりただちに処理され、「スキャンモード」のプロパティの影響を受けません。

プロパティグループ	<input checked="" type="checkbox"/> スキャンモード	
一般	スキャンモード	クライアント固有のスキャン速度を適用 ▼
スキャンモード	キャッシュからの初回更新	無効化
タイミング		

「スキャンモード」: 購読しているクライアントに送信される更新についてデバイス内のタグをどのようにスキャンするかを指定します。オプションの説明は次のとおりです。

- 「クライアント固有のスキャン速度を適用」: このモードでは、クライアントによって要求されたスキャン速度を使用します。
 - 「指定したスキャン速度以下でデータを要求」: このモードでは、最大スキャン速度として設定されている値を指定します。有効な範囲は 10 から 99999990 ミリ秒です。デフォルトは 1000 ミリ秒です。
- **注記**: サーバーにアクティブなクライアントがあり、デバイスのアイテム数とスキャン速度の値が増加している場

合、変更はただちに有効になります。スキャン速度の値が減少している場合、すべてのクライアントアプリケーションが切断されるまで変更は有効になりません。

- ・「**すべてのデータを指定したスキャン速度で要求**」: このモードでは、指定した速度で購読済みクライアント用にタグがスキャンされます。有効な範囲は 10 から 99999990 ミリ秒です。デフォルトは 1000 ミリ秒です。
- ・「**スキャンしない、要求ポールのみ**」: このモードでは、デバイスに属するタグは定期的にポーリングされず、アクティブになった後はアイテムの初期値の読み取りは実行されません。更新のポーリングは、_DemandPoll タグに書き込むか、個々のアイテムについて明示的なデバイス読み取りを実行することによって、クライアントが行います。詳細については、サーバーのヘルプで「デバイス要求ポール」を参照してください。
- ・「**タグに指定のスキャン速度を適用**」: このモードでは、静的構成のタグプロパティで指定されている速度で静的タグがスキャンされます。動的タグはクライアントが指定したスキャン速度でスキャンされます。

「**キャッシュからの初回更新**」: このオプションを有効にした場合、サーバーは保存 (キャッシュ) されているデータから、新たにアクティブ化されたタグ参照の初回更新を行います。キャッシュからの更新は、新しいアイテム参照が同じアドレス、スキャン速度、データ型、クライアントアクセス、スケール設定のプロパティを共有している場合にのみ実行できます。1 つ目のクライアント参照についてのみ、初回更新にデバイス読み取りが使用されます。デフォルトでは無効になっており、クライアントがタグ参照をアクティブ化したときにはいつでも、サーバーがデバイスから初期値の読み取りを試みます。

デバイスのプロパティ - タイミング

デバイスのタイミングのプロパティでは、エラー状態に対するデバイスの応答をアプリケーションのニーズに合わせて調整できます。多くの場合、最適なパフォーマンスを得るためにはこれらのプロパティを変更する必要があります。電氣的に発生するノイズ、モデムの遅延、物理的な接続不良などの要因が、通信ドライバーで発生するエラーやタイムアウトの数に影響します。タイミングのプロパティは、設定されているデバイスごとに異なります。

プロパティグループ	通信タイムアウト	
一般	要求のタイムアウト (ミリ秒)	5000
スキャンモード	再試行回数	3
タイミング	要求間遅延 (ミリ秒)	0
自動格下げ		

通信タイムアウト

「**接続タイムアウト**」: このプロパティ (イーサネットベースのドライバーで主に使用) は、リモートデバイスとのソケット接続を確立するために必要な時間を制御します。デバイスの接続時間は、同じデバイスへの通常の通信要求よりも長くかかることがよくあります。有効な範囲は 1 から 30 秒です。デフォルトは通常は 3 秒ですが、各ドライバーの特性によって異なる場合があります。この設定がドライバーでサポートされていない場合、無効になります。

● **注記**: UDP 接続の特性により、UDP を介して通信する場合には接続タイムアウトの設定は適用されません。

「**要求のタイムアウト**」: すべてのドライバーがターゲットデバイスからの応答の完了を待機する時間を決定するために使用する間隔を指定します。有効な範囲は 50 から 9,999,999 ミリ秒 (167.6667 分) です。デフォルトは通常は 1000 ミリ秒ですが、ドライバーによって異なる場合があります。ほとんどのシリアルドライバーのデフォルトのタイムアウトは 9600 ボー以上のボーレートに基づきます。低いボーレートでドライバーを使用している場合、データの取得に必要な時間が増えることを補うため、タイムアウト時間を増やします。

「**タイムアウト前の試行回数**」: ドライバーが通信要求を発行する回数を指定します。この回数を超えると、要求が失敗してデバイスがエラー状態にあると見なされます。有効な範囲は 1 から 10 です。デフォルトは通常は 3 ですが、各ドライバーの特性によって異なる場合があります。アプリケーションに設定される試行回数は、通信環境に大きく依存します。このプロパティは、接続の試行と要求の試行の両方に適用されます。

タイミング

「**要求間遅延**」: ドライバーがターゲットデバイスに次の要求を送信するまでの待ち時間を指定します。デバイスに関連付けられているタグおよび 1 回の読み取りと書き込みの標準のポーリング間隔がこれによってオーバーライドされます。この遅延は、応答時間が長いデバイスを扱う際や、ネットワークの負荷が問題である場合に役立ちます。デバイスの遅延を設定すると、そのチャンネル上のその他すべてのデバイスとの通信に影響が生じます。可能な場合、要求間遅延を必要とするデバイスは別々のチャンネルに分けて配置することをお勧めします。その他の通信プロパティ (通信シリアル化など) によってこの遅延が延長されることがあります。有効な範囲は 0 から 300,000 ミリ秒ですが、一部のドライバーでは独自の設計の目的を果たすために最大値が制限されている場合があります。デフォルトは 0 であり、ターゲットデバイスへの要求間に遅延はありません。

● **注記**: すべてのドライバーで「要求間遅延」がサポートされているわけではありません。使用できない場合にはこの設定は表示されません。

デバイスのプロパティ - 自動格下げ

自動格下げのプロパティを使用することで、デバイスが応答していない場合にそのデバイスを一時的にスキャン停止にできます。応答していないデバイスを一定期間オフラインにすることで、ドライバーは同じチャンネル上のほかのデバイスとの通信を引き続き最適化できます。停止期間が経過すると、ドライバーは応答していないデバイスとの通信を再試行します。デバイスが応答した場合はスキャンが開始され、応答しない場合はスキャン停止期間が再開します。

プロパティグループ	<input checked="" type="checkbox"/> 自動格下げ	
一般	エラー時に格下げ	有効化
スキャンモード	格下げまでのタイムアウト回数	3
タイミング	格下げ期間 (ミリ秒)	10000
自動格下げ	格下げ時に要求を破棄	無効化

「エラー時に格下げ」: 有効にした場合、デバイスは再び応答するまで自動的にスキャン停止になります。

● **ヒント**: システムタグ `_AutoDemoted` を使用して格下げ状態をモニターすることで、デバイスがいつスキャン停止になったかを把握できます。

「格下げまでのタイムアウト回数」: デバイスをスキャン停止にするまでに要求のタイムアウトと再試行のサイクルを何回繰り返すかを指定します。有効な範囲は 1 から 30 回の連続エラーです。デフォルトは 3 です。

「格下げ期間」: タイムアウト値に達したときにデバイスをスキャン停止にする期間を指定します。この期間中、そのデバイスには読み取り要求が送信されず、その読み取り要求に関連するすべてのデータの品質は不良に設定されます。この期間が経過すると、ドライバーはそのデバイスのスキャンを開始し、通信での再試行が可能になります。有効な範囲は 100 から 3600000 ミリ秒です。デフォルトは 10000 ミリ秒です。

「格下げ時に要求を破棄」: スキャン停止期間中に書き込み要求を試行するかどうかを選択します。格下げ期間中も書き込み要求を必ず送信するには、無効にします。書き込みを破棄するには有効にします。サーバーはクライアントから受信した書き込み要求をすべて自動的に破棄し、イベントログにメッセージを書き込みません。

デバイスのプロパティ - 通信パラメータ

イーサネットカプセル化モードは、イーサネットネットワーク上のターミナルサーバーに接続しているシリアルデバイスとの通信用に設計されています。ターミナルサーバーは基本的には仮想のシリアルポートです。ターミナルサーバーはイーサネットネットワーク上の TCP/IP メッセージをシリアルデータに変換します。メッセージがシリアル形式に変換されると、ユーザーはシリアル通信をサポートする標準デバイスをターミナルサーバーに接続可能になります。

● **詳細**については、サーバーのヘルプで「イーサネットカプセル化の使用方法」を参照してください。

● **注記**: イーサネットカプセル化モードは実際のシリアル通信ドライバーに対して完全に透過的なので、ユーザーは残りのデバイスプロパティを、これらがあたかもローカル PC のシリアルポート上で直接デバイスに接続しているかのように設定する必要があります。

「IP アドレス」: このデバイスが接続されているターミナルサーバーの 4 つのフィールドから構成される IP アドレスを入力します。IP は `YYY.YYY.YYY.YYY` として指定します。YYY は IP アドレスを示します。各 YYY バイトが 0 から 255 の範囲でなければなりません。各シリアルデバイスは独自の IP アドレスを持つことができますが、単一のターミナルサーバーからマルチドロップされた複数のデバイスがある場合、複数のデバイスが同じ IP アドレスを持つことがあります。

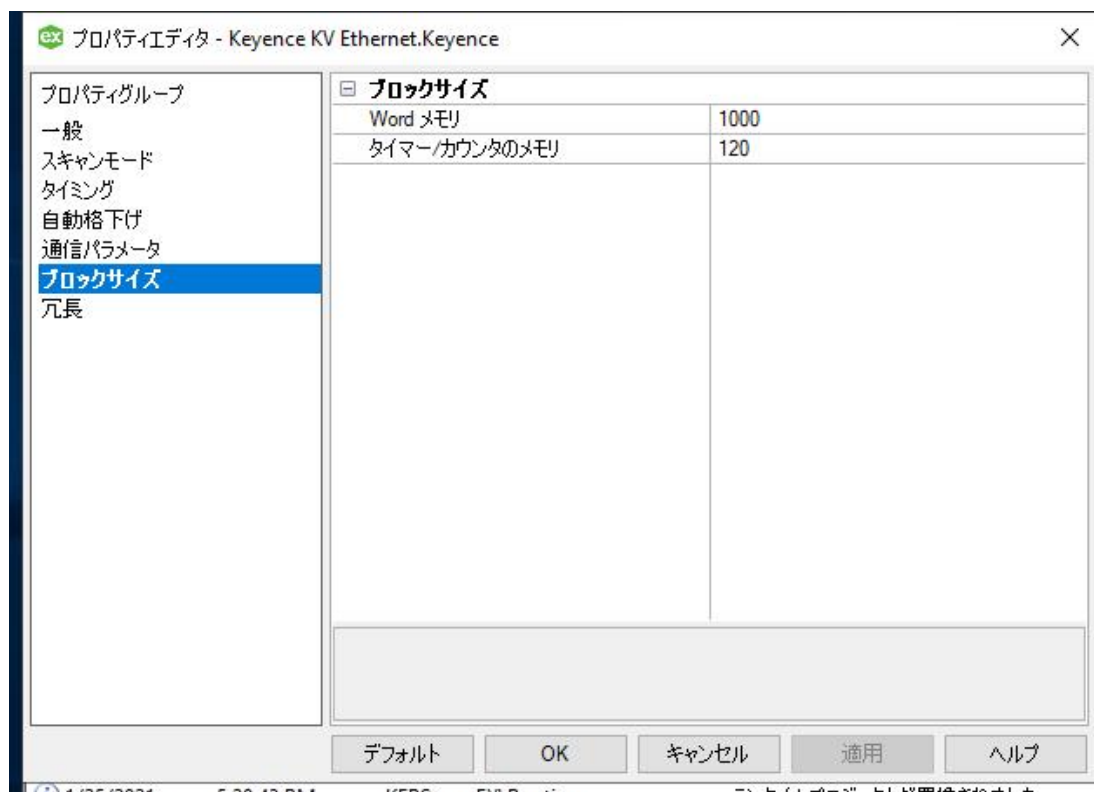
「ポート」: リモートターミナルサーバーに接続するためのイーサネットポートを設定します。

「プロトコル」: TCP/IP 通信または UDP 通信を設定します。この選択は使用されているターミナルサーバーの特性によります。デフォルトのプロトコル選択は TCP/IP です。使用可能なプロトコルの詳細については、ターミナルサーバーのヘルプドキュメントを参照してください。

● **注記**:

1. サーバーがオンラインで常時稼働している場合、これらのプロパティをいつでも変更できます。オペレータがプロパティを変更したりサーバーの機能にアクセスしたりすることを防ぐため、適切なユーザー役割を使用し、権限を正しく管理する必要があります。
2. IP アドレスの有効な範囲は 0.0.0.0 から 255.255.255.255 です (0.0.0.0 と 255.255.255.255 は含まれません)。

デバイスのプロパティ - ブロックサイズ



「**Word メモリ**」: Word メモリレジスタを読み取るブロックサイズ。デバイスタイプ B、CM、CR、DM、EM、FM、LR、MR、R、TM、VB、VM、W、および ZF が含まれます。Word メモリは、一度に 1 から 1000 ポイント (メモリデバイス) 読み取ることができます。デフォルトは 1000 です。

「**タイマー/カウンタのメモリ**」: タイマーおよびカウンタメモリのレジスタを読み取るブロックサイズ。デバイスタイプ T、TC、TS、C、CC、CS を含みます。タイマーとカウンタメモリは、一度に 1 から 120 ポイント (メモリデバイス) 読み取ることができます。デフォルトは 120 です。

● 注記:

1. ブロックサイズを大きくすると、1 回の要求でより多くのレジスタ値がデバイスから読み取られ、帯域幅を低減できます。ブロックサイズが小さい場合、さらに多くのリクエストがデバイスに発行され、デバイス内の離れた場所からデータを読み取る際に役立つことがあります。
2. ブロックサイズの変更は、クライアントの接続中に有効になります。
3. その他のすべてのデバイスタイプには、以下の固定ブロックサイズがあります。

デバイスタイプ	固定ブロックサイズ
インデックスレジスタ (Z)	12
高速カウンタ (CTH)	1
高速カウンタコンパレータ (CTC)	1
デジタルトリマー (AT)	8

デバイスのプロパティ - 冗長

プロパティグループ	<input type="checkbox"/> 冗長	
一般	セカンダリパス	
スキャンモード	動作モード	障害時に切り替え
タイミング	モニターアイテム	
冗長	モニター間隔 (秒)	300
	できるだけ速やかにプライマリに...	はい

冗長設定はメディアレベルの冗長プラグインで使用できます。

● 詳細については、Web サイトまたは[ユーザーマニュアル](#)を参照するか、営業担当者までお問い合わせください。

タグのプロパティ - 一般

タグは、サーバーの通信対象となるデバイス内のアドレスを表します。サーバーでは、動的タグとユーザー定義の静的タグの両方を使用できます。動的タグは、クライアント上で作成されてクライアントに保管されます。動的タグにより、デバイスデータのアドレスを指定することができます。ユーザー定義の静的タグは、サーバー上で作成されてサーバーに保管されます。静的タグは、デバイスデータのアドレスに対するポインタとして機能します。タグのブラウズがサポートされているクライアントで、静的タグをブラウズすることができます。

詳細については、[動的タグ](#)および[静的タグ \(ユーザー定義\)](#)を参照してください。

プロパティグループ	<input type="checkbox"/> 識別	
一般	名前	Tag1
スケール変換	説明	
	<input type="checkbox"/> データプロパティ	
	アドレス	40001
	データ型	Word
	クライアントアクセス	読み取り/書き込み
	スキャン速度 (ミリ秒)	100

「名前」: このタグを表す文字列を入力します。タグ名の長さは最大 256 文字です。タグ名は、OPC ブラウズデータタグ名の一部であり、特定のデバイスブランチまたはタググループブランチ内で一意でなければなりません。予約文字については、[チャンネル、デバイス、タグ、およびタググループに適切な名前を付ける方法](#)を参照してください。

ヒント: このアプリケーションが、同じ名前を持つタグのブロックの使用に最も適している場合は、タググループを使用してそのタグを分離します。詳細については、[タググループのプロパティ](#)を参照してください。

「説明」: タグのコンテキストを入力します。最大 255 文字の文字列を説明として入力できます。データアクセス 2.0 のタグのプロパティをサポートする OPC クライアントを使用している場合は、タグのアイテムの説明プロパティからこの説明プロパティにアクセスできます。

「アドレス」: ターゲットタグのドライバーアドレスを入力します。アドレスのフォーマットはドライバーのプロトコルに基づきます。アドレスの長さは最大 128 文字です。

ヒント: アドレスを入力する方法に関するヒントを表示するには、参照 (...) ボタンをクリックします。入力されたアドレスをドライバーが受け入れると、メッセージは表示されません。ポップアップがすべてのエラーを通知します。アドレス文字列ではなく、データ型の選択に関連するエラーもあります。

「データ型」: 物理デバイスで検出されたこのタグのデータのフォーマットを指定します。ほとんどの場合、これはクライアントに返されるデータのフォーマットでもあります。データ型の設定は、通信ドライバーがデバイスにデータを読み込む/書き込む方法に関する重要な要素です。多くのドライバーでは、データの特定部分のデータ型は厳密に固定されており、ドライバーは、デバイスのデータの読み込み時に使用する必要があるフォーマットを認識しています。ただし、場合によっては、デバイスのデータの解釈はユーザーに大きく依存します。その例として、16 ビットのデータレジスタを使用するデバイスがあります。通常、これはデータが Short または Word であることを示します。レジスタベースのデバイスの多くは、2 つのレジスタにまたがる値もサポートします。このような場合、2 つのレジスタにまたがる値として許可されるのは、Long、DWord、または 32 ビットの Float です。使用しているドライバーでこのレベルの柔軟性がサポートされている場合は、このタグのデータの読み取り方法をユーザーが指定する必要があります。適切なデータ型を選択すると、ドライバーによって 1 つ以上のレジスタが要求されます。

- 「デフォルト」 - ドライバーのデフォルトのデータ型を使用します。
- 「Boolean」 - 真または偽のバイナリ値

- ・「Char」- 符号付き 8 ビット 整数データ
- ・「Byte」- 符号なし 8 ビット 整数データ
- ・「Short」- 符号付き 16 ビット 整数データ
- ・「Word」- 符号なし 16 ビット 整数データ
- ・「Long」- 符号付き 32 ビット 整数データ
- ・「DWord」- 符号なし 32 ビット 整数データ
- ・「LLong」- 符号付き 64 ビット 整数データ
- ・「QWord」- 符号なし 64 ビット 整数データ
- ・「Float」- 32 ビット 実数値 IEEE-754 標準定義
- ・「Double」- 64 ビット 実数値 IEEE-754 標準定義
- ・「String」- Nul 終端 Unicode 文字列
- ・「BCD」- 2 バイトパック BCD の値の範囲は 0 から 9999 です。
- ・「LBCD」- 4 バイトパック BCD 値の範囲は 0 から 99999999 です。
- ・「Date」- 8 バイトの浮動小数点数 ([Microsoft® 知識ベース](#)を参照してください)。

「クライアントアクセス」: タグが「読み取り専用」であるか、「読み取り書き込み」であるかを指定します。「読み取り専用」を選択すると、このタグに含まれるデータがクライアントアプリケーションによって変更されることを防止できます。「読み取り書き込み」を選択すると、必要に応じて、このタグの値の変更をクライアントアプリケーションに許可することができます。「クライアントアクセス」を選択すると、OPC UA Client のブラウザ領域にタグを表示する方法にも影響を与えます。多くのクライアントアプリケーションでは、属性に基づいたタグのフィルタリングもできます。このタグのアクセス方法を変更すると、クライアントのブラウザ領域にタグを表示する方法とそのタイミングも変更されることがあります。

「スキャン速度」: デバイスのプロパティ内の「タグに指定のスキャン速度を適用」の「スキャンモード」オプションを使用している場合に、このタグの更新間隔を指定します。OPC クライアントは、すべての OPC グループの一部である更新レートを使用して、データのスキャン速度を制御できます。通常は、OPC 以外のクライアントにはそのオプションがありません。サーバーでは、タグごとに更新レートが指定されます。スキャン速度を使用すると、アプリケーションのニーズに合わせてサーバーの帯域幅要件を調整できます。たとえば、変更が非常に遅いデータを読み取る必要がある場合は、値を頻繁に読み取る理由はありません。スキャン速度を使用すると、このタグに遅い速度で読み取らせ、必要な通信チャネルを減らすことができます。有効範囲は、10 ミリ秒単位で 10 から 99999990 ミリ秒 (ms) です。デフォルトは 100 ミリ秒です。

サーバーがオンラインで常時稼働している場合は、これらのプロパティをいつでも変更できます。タグのプロパティに加えられた変更はただちに有効になります。ただし、このタグにすでに接続されているクライアントアプリケーションは、タグを解放し、再び取得しようとするまでは影響を受けません。サーバー機能へのアクセス権を制限してオペレータがプロパティを変更できないようにするには、ユーザーマネージャを使用します。

タグのプロパティ - スケール変換

このサーバーは、タグのスケール変換をサポートしています。デバイスから提供される生データのスケールを、アプリケーションにとって妥当な範囲に変換できます。

プロパティグループ	☐ スケール変換	
一般	タイプ	線形
スケール変換	生データ下限	0
	生データ上限	1000
	スケール変換後のデータ型	Double
	スケール変換後の下限	0
	スケール変換後の上限	1000
	下限でクランプ	いいえ
	上限でクランプ	いいえ
	値を負数化	いいえ
	単位	

「タイプ」: 生データ値のスケール変換方法として、「線形」または「平方根」を選択します。スケール変換を無効にする場合は、「なし」を選択します。スケール変換の計算式を以下に示します。

タイプ	値のスケール変換の計算式
線形	$(((\text{ScaledHigh} - \text{ScaledLow}) / (\text{RawHigh} - \text{RawLow})) * (\text{RawValue} - \text{RawLow})) + \text{ScaledLow}$
平方根	$(\text{平方根} ((\text{RawValue} - \text{RawLow}) / (\text{RawHigh} - \text{RawLow})) * (\text{ScaledHigh} - \text{ScaledLow})) + \text{ScaledLow}$

「**生データ下限**」: デバイスからのデータの範囲の下限を指定します。有効範囲はタグの生データのデータ型によって決まります。たとえば、生データ値が Short の場合、有効となる範囲は -32768 から 32767 です。

「**生データ上限**」: デバイスからのデータの範囲の上限を指定します。生データ上限の値は生データ下限の値より大きくなければなりません。有効範囲はタグの生データのデータ型によって決まります。

「**スケール変換後のデータ型**」: スケール変換後のタグのデータ型を指定します。データ型を、Short などの生データ型を含む任意の有効な OPC データ型や、Long データ型のエンジニアリング値に設定できます。スケール変換後のデフォルトのデータ型は、Double です。

「**スケール変換後の下限**」: スケール変換後の有効なデータ値の範囲の下限を指定します。有効範囲はタグのデータ型によって決まります。

「**スケール変換後の上限**」: スケール変換後の有効なデータ値の範囲の上限を指定します。有効範囲はタグのデータ型によって決まります。

「**下限でクランプ**」: 変換後のデータが指定した範囲の下限を下回らないようにする場合は、「はい」を指定します。設定されている範囲からデータが外れても構わない場合は、「いいえ」を指定します。

「**上限でクランプ**」: 変換後のデータが指定した範囲の上限を上回らないようにする場合は、「はい」を指定します。設定されている範囲からデータが外れても構わない場合は、「いいえ」を指定します。

「**値を負数化**」: 変換後の値をクライアントに渡す前に値の正負を反転する場合は、「はい」を指定します。値を修正せずにクライアントに渡す場合は、「いいえ」を指定します。

このサーバーは、データアクセス仕様 2.0 で利用可能となった OPC タグプロパティをサポートしています。OPC クライアントがこれらのプロパティをサポートしている場合は、オブジェクトの範囲 (ユーザー入力オブジェクトや表示など) を自動的に構成できます。権限のないオペレータによってこれらのプロパティが変更されることを防止するには、ユーザーマネージャを使用して、サーバー機能へのアクセス権を制限します。

データ型の説明

データ型	説明
Boolean	1 ビット
Word	符号なし 16 ビット値 ビット 0 が下位ビット ビット 15 が上位ビット
Short	符号付き 16 ビット値 ビット 0 が下位ビット ビット 14 が上位ビット ビット 15 が符号ビット
Word、Short - 16 ビット (2 バイト) の例	レジスタ DM100 が 16 ビットのデータ型として指定されている場合、レジスタ DM100 のビット 0 は 16 ビット値のビット 0 になり、レジスタ DM100 のビット 15 は 16 ビット値のビット 15 になります。 レジスタ R99800 が 16 ビットのデータ型として指定されている場合、R99800 は 16 ビット値のビット 0 になり、R99815 は 16 ビット値のビット 15 になります。
DWord	符号なし 32 ビット値 ビット 0 が下位ビット ビット 31 が上位ビット
Long	符号付き 32 ビット値

データ型	説明
	ビット 0 が下位ビット ビット 30 が上位ビット ビット 31 が符号ビット
Float	32 ビット浮動小数点値
DWord、Long、Float - 32 ビット (4 バイト) の例	レジスタ DM100 が 32 ビットのデータ型として指定されている場合、レジスタ DM100 のビット 0 は 32 ビット値のビット 0 になり、レジスタ DM101 のビット 15 は 32 ビット値のビット 31 になります。 レジスタ R99800 が 32 ビットのデータ型として指定されている場合、R99800 は 32 ビット値のビット 0 になり、R99915 は 32 ビット値のビット 31 になります。
QWord	符号なし 64 ビット値 ビット 0 が下位ビット ビット 63 が上位ビット
LongLong	符号付き 64 ビット値 ビット 0 が下位ビット ビット 62 が上位ビット ビット 63 が符号ビット
Double	64 ビット浮動小数点値
QWord、LongLong、Double - 64 ビット (8 バイト) の例	レジスタ DM100 が 64 ビットのデータ型として指定されている場合、レジスタ DM100 のビット 0 は 64 ビット値のビット 0 になり、レジスタ DM103 のビット 15 は 32 ビット値のビット 63 になります。 レジスタ R99800 が 64 ビットのデータ型として指定されている場合、R99800 は 64 ビット値のビット 0 になり、R10115 は 64 ビット値のビット 63 になります。
String	Null で終了する ASCII 文字列のサポートには、HiLo および LoHi バイトオーダーの選択と、デバイスタイプに設定されたブロックサイズ x デバイスタイプごとのバイト数までの文字列の長さが含まれています。

KV シリーズのアドレス指定

次のメモリマップは、新しいデバイスをサポートするためにすべてのタイプのメモリに公開されています。デバイス固有のアドレス範囲については、製造メーカーのドキュメントを参照してください。デフォルトのデータ型を**太字**で示しています。

● 32 ビットデータ型 (DWord、Long、および Float) および 64 ビットデータ型 (Qword、LongLong、および Double) のタグを修正するには注意が必要です。デバイスタイプのほとんどは 16 ビットのアドレス空間であるため、32 ビットおよび 64 ビットのデータ型のタグは隣接する Word アドレスと重複します。DWord またはこれより大きいデータ型を使用する際には、DM0、DM2、DM4 などを使用して、Word が重複しないようにしてください。QWord データ型を使用する際には、Z1、Z3、Z5 などを使用して、DWord が重複しないようにしてください。

● 詳細については、[文字列内のビットのサポート](#)、[文字列のサポート](#)、[配列のサポート](#)を参照してください。

デバイスタイプ	範囲	データ型	アクセス
入力/出力リレー	RXXXXX00 - RXXXXX15 R0000000 - R6553500 R0000000 - R6553400 R0000000 - R6553200 R0000000[1] - R6553500 [1000] R0000000[1] - R6553400[500] R0000000[1] - R6553200[250]	Boolean Word、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Word 、Short Array DWord、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array	読み取り/書き込み
制御リレー	CRXXXXX00 - CRXXXXX15 CR0000000 - CR6553500 CR0000000 - CR6553400 CR0000000 - CR6553200 CR0000000[1] - CR6553500 [1000] CR0000000[1] - CR6553400 [500]	Boolean Word、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Word 、Short Array DWord、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array	読み取り/書き込み

デバイスタイプ	範囲	データ型	アクセス
	CR0000000[1] - CR6553200 [250]		
ラッチリレー	LRXXXXX00 - LRXXXXX15 LR0000000 - LR6553500 LR0000000 - LR6553400 LR0000000 - LR6553200 LR0000000[1] - LR6553500 [1000] LR0000000[1] - LR6553400 [500] LR0000000[1] - LR6553200 [250]	Boolean Word、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Word、Short Array DWord、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array	読み取り/書き 込み
内部補助リレー	MRXXXXX00 - MRXXXXX15 MR0000000 - MR6553500 MR0000000 - MR6553400 MR0000000 - MR6553200 MR0000000[1] - MR6553500 [1000] MR0000000[1] - MR6553400 [500] MR0000000[1] - MR6553200 [250]	Boolean Word、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Word、Short Array DWord、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array	読み取り/書き 込み
リンクリレー	BXXXX0 - BXXXXF B00000 - BFFFF0 B00000 - BFFFE0 B00000 - BFFFC0 B00000[1] - BFFFF0[1000] B00000[1] - BFFFE0[500] B00000[1] - BFFFC0[250]	Boolean Word、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Word、Short Array DWord、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array	読み取り/書き 込み
作業リレー	VBXXXX0 - VBXXXXF VB00000 - VBFFFF0 VB00000 - VBFFFE0 VB00000 - VBFFFC0 VB00000[1] - VBFFFF0[1000] VB00000[1] - VBFFFE0[500] VB00000[1] - VBFFFC0[250]	Boolean Word、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Word、Short Array DWord、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array	読み取り/書き 込み
制御メモリ	CM0.0 - CM1048575.15 CM0 - CM1048575 CM0 - CM1048574 CM0 - CM1048572 CM0[1] - CM1048575[2000] CM0[1] - CM1048575[1000] CM0[1] - CM1048574[500] CM0[1] - CM1048572[250] CM0:1 - CM1048575:2000 CM0:1H - CM1048575:2000H CM0:1L - CM1048575:2000L	Boolean Word、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Byte Array Word、Short Array DWord、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array String String String	読み取り/書き 込み
データメモリ	DM0.0 - DM1048575.15 DM0 - DM1048575 DM0 - DM1048574 DM0 - DM1048572 DM0[1] - DM1048575[2000] DM0[1] - DM1048575[1000] DM0[1] - DM1048574[500]	Boolean Word、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Byte Array Word、Short Array DWord、Long、Float Array	読み取り/書き 込み

デバイスタイプ	範囲	データ型	アクセス
	DM0[1] - DM1048572[250] DM0:1 - DM1048575:2000 DM0:1H - DM1048575:2000H DM0:1L - DM1048575:2000L	QWord、LongLong、Double Array String String String	
拡張データメモリ	EM0.0 - EM1048575.15 EM0 - EM1048575 EM0 - EM1048574 EM0 - EM1048572 EM0[1] - EM1048575[2000] EM0[1] - EM1048575[1000] EM0[1] - EM1048574[500] EM0[1] - EM1048572[250] EM0:1 - EM1048575:2000 EM0:1H - EM1048575:2000H EM0:1L - EM1048575:2000L	Boolean Word 、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Byte Array Word 、Short Array DWord、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array String String String	読み取り書き込み
テンポラリメモリ	TM0.0 - TM1048575.15 TM0 - TM1048575 TM0 - TM1048574 TM0 - TM1048572 TM0[1] - TM1048575[2000] TM0[1] - TM1048575[1000] TM0[1] - TM1048574[500] TM0[1] - TM1048572[250] TM0:1 - TM1048575:2000 TM0:1H - TM1048575:2000H TM0:1L - TM1048575:2000L	Boolean Word 、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Byte Array Word 、Short Array DWord、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array String String String	読み取り書き込み
作業メモリ	VM0.0 - VM1048575.15 VM0 - VM1048575 VM0 - VM1048574 VM0 - VM1048572 VM0[1] - VM1048575[2000] VM0[1] - VM1048575[1000] VM0[1] - VM1048574[500] VM0[1] - VM1048572[250] VM0:1 - VM1048575:2000 VM0:1H - VM1048575:2000H VM0:1L - VM1048575:2000L	Boolean Word 、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Byte Array Word 、Short Array DWord、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array String String String	読み取り書き込み
タイマー	T0 - T1048575	Boolean	読み取り書き込み
タイマーの現在の値	TC0 - TC1048575 TC0[1] - TC1048575[120]	DWord、Long DWord、Long Array	読み取り書き込み
タイマー設定値	TS0 - TS1048575 TS0[1] - TS1048575[120]	DWord、Long DWord、Long Array	読み取り書き込み
カウンタ	C0 - C1048575	Boolean	読み取り書き込み
カウンタの現在の値	CC0 - CC1048575 CC0[1] - CC1048575[120]	DWord、Long DWord、Long、 Array	読み取り書き込み
カウンタ設定値	CS0 - CS1048575 CS0[1] - CS1048575[120]	DWord、Long DWord、Long Array	読み取り書き込み
高速カウンタ	CTH0 - CTH1048575	DWord、Long	読み取り書き込み
高速カウンタコンパレータ	CTC0 - CTC1048575	DWord、Long	読み取り書き込み

デバイスタイプ	範囲	データ型	アクセス
			込み
ファイルレジスタのカレントバンク	FM0.0 - FM1048575.15 FM0 - FM1048575 FM0 - FM1048574 FM0 - FM1048572 FM0[1] - FM1048575[2000] FM0[1] - FM1048575[1000] FM0[1] - FM1048574[500] FM0[1] - FM1048572[250] FM0:1 - FM1048575:2000 FM0:1H - FM1048575:2000H FM0:1L - FM1048575:2000L	Boolean Word 、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Byte Array Word 、Short Array DWord、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array String String String	読み取り書き込み
ファイルレジスタの連続するモード	ZF0.0 - ZF1048575.15 ZF0 - ZF1048575 ZF0 - ZF1048574 ZF0 - ZF1048572 ZF0[1] - ZF1048575[2000] ZF0[1] - ZF1048575[1000] ZF0[1] - ZF1048574[500] ZF0[1] - ZF1048572[250] ZF0:1 - ZF1048575:2000 ZF0:1H - ZF1048575:2000H ZF0:1L - ZF1048575:2000L	Boolean Word 、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Byte Array Word 、Short Array DWord、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array String String String	読み取り書き込み
リンクレジスタ	W0.0 - WFFFF.15 W0 - WFFFF W0 - WFFFFE W0 - WFFFC W0[1] - WFFFF[2000] W0[1] - WFFFF[1000] W0[1] - WFFFFE[500] W0[1] - WFFFC[250] W0:1 - WFFFF:2000 W0:1H - WFFFF:2000H W0:1L - WFFFF:2000L	Boolean Word 、Short DWord、Long、Float QWord、LongLong、Double Byte Array Word 、Short Array DWord、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array String String String	読み取り書き込み
インデックスレジスタ	Z1.0 - Z1048575.31 Z1 - Z1048575 Z1 - Z1048574 Z1[1] - Z1048575[48] Z1[1] - Z1048575[12] Z1[1] - Z1048574[6] Z1:1 - Z1048575:48 Z1:1H - Z1048575:48H Z1:1L - Z1048575:48L	Boolean DWord 、Long、Float QWord、LongLong、Double Byte Array DWord 、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array String String String	読み取り書き込み
デジタルトリマー	AT0.0 - AT1048575.31 AT0 - AT1048575 AT0 - AT1048574 AT0[1] - AT1048575[8] AT0[1] - AT1048574[4]	Boolean DWord 、Long、Float QWord、LongLong、Double DWord 、Long、Float Array QWord、LongLong、Double Array	読み取り書き込み

Word 内のビットのサポート

特定のメモリ、レジスタ、およびデジタルトリマーのアドレス空間では、Word 内のビットのタグ構文 (上記のテーブル参照) がサポートされます。ビット構文では、PLC の物理 Word メモリ内または DWord メモリ内の特定のビットに対してのみ読み書きができます。ビット構文で作成されたタグは、Boolean データ型へのデフォルトとなります。ビット構文タグに書き込

むと、読み取り-修正-書き込みのシーケンスを実行することによって、Word または DWord メモリ空間内のターゲットビットのみが修正されます。読み取りは、Word または DWord のメモリ内のその他のビットが上書きされないように、ターゲットビットの書き込み前に実行されます。

例

- DM100 (16 ビットメモリ) のビット 0 をアドレス指定するには、DM100.0 と入力します。
- DM100 (16 ビットメモリ) のビット 15 をアドレス指定するには、DM100.15 と入力します。
- AT0 (32 ビットメモリ) のビット 31 をアドレス指定するには、AT0.31 と入力します。

● **注記:** ビット構文タグに書き込むたびに、読み取り-修正-書き込みが実行されるわけではありません。ビット構文タグに書き込む前に、アドレスの読み取りを 1 回だけ実行する必要があります。Word または DWord メモリが頻繁に変更される際にビット構文タグに書き込む場合、必要なデータを維持するために、そのアドレスが読み取りを処理する個別の Word または DWord のタグを追加することをお勧めします。

文字列のサポート

オープンモデルでは、ASCII 文字列またはマルチバイト文字列として、メモリのデバイスタイプ: CM、DM、EM、TM、VM、およびレジスタのデバイスタイプ: FM、W、ZF、Z の読み取りと書き込みがサポートされています。文字列データにこれらいずれかのデバイスタイプを使用する際、各アドレスに含めることができる文字数は、32 ビットのデバイスタイプでは 4 バイトまでの文字データ、16 ビットのデバイスタイプでは 2 バイトまでの文字データになります。該当する任意のデバイスタイプに許可される文字列の長さ (バイト) は、1 から ([ブロックサイズ]*[デバイスタイプのバイト数]) までです。文字列の長さ (バイト) は、目的のデバイスタイプに許容されているアドレス空間を超えることはできません。文字データのバイトオーダーは、文字列アドレス構文に H または L を追加することによって文字列が定義されている場合に選択できます。指定されていない場合、HiLo バイトオーダーリングがデフォルトになります。奇数のバイト長さの文字列、または使用するアドレス空間のバイト数より小さく定義された文字列のバイト長さは、アドレス空間の残りのバイトに NUL 文字 (0) を書き込みます。文字列がブロック内にある場合、その文字列はブロック読み取りの一部として読み取られます。文字列がブロック境界を越える場合、文字列を読み取ると、その文字列のデバイスへの独立した読み取り要求が発生します。

文字列は、OS のシステムロケールで定義された 1 バイト文字セットまたはマルチバイト文字セットをサポートします。

例

- DM0 で開始し、長さが 2000 バイトの文字データ、HiLo バイトオーダーの文字列をアドレス指定するには、DM0:2000 と入力します。
- WCE21 で開始し、長さが 1 バイトの文字データ、HiLo バイトオーダーの文字列をアドレス指定するには、WCE21:1H と入力します。
- DM0 で開始し、長さが 7 バイトの文字データ、LoHi バイトオーダーの文字列をアドレス指定するには、DM0:7L と入力します。
- アドレス DM0 における ASCII 文字列 "To" の HiLo と LoHi での比較:
 1. DM0:2H (HiLo バイトオーダーリング) - DM0 = "To" (0x546F)
 2. DM0:2L (LoHi バイトオーダーリング) - DM0 = "oT" (0x6F54)
- デフォルトの最大ブロックサイズ 1000 を使用した、16 ビットアドレスの文字列最大長: 1000 * 2 バイト = 2000 バイト
- ハードコードされたブロックサイズ 12 を使用した、32 ビットアドレス Z の文字列最大長: 12 * 4 バイト = 48 バイト

配列のサポート

データ型: Boolean と String 以外のすべてのデータ型で配列がサポートされています。

デバイスタイプ: 配列は、次のデバイスタイプでサポートされています: リレーのデバイスタイプ: B、CR、LR、MR、R、および VB; 16 ビットのメモリのデバイスタイプ: CM、DM、EM、TM および VM; レジスタのデバイスタイプ: FM、W、および ZF; 32 ビットのメモリのデバイスタイプ: AT および Z; 32 ビットのタイマー/カウンタのデバイスタイプ: TC、TS、CC、および CS。

配列の構文は、デバイスタイプと数字を入力し、続いて配列長さ仕様を含む角括弧を入力したフォーマットを使用します。タグのデータ型が指定されていない場合、この構文を使用する際には、16 ビットのデバイスタイプでは Word 配列が、32 ビットのデバイスタイプでは DWord 配列がデフォルトになります。以下の例を参照してください。

- *R40000[2] Word 配列* - このタグは、アドレス R40000 および R40100 に対して読み取りおよび書き込みます。
- *DM0[3] DWord 配列* - このタグは、アドレス DM0 & DM1、DM2 & DM3、および DM4 & DM5 に対して読み取りおよび書き込みます。
- *W3C[8] Word 配列* - このタグは、アドレス W3C、W3D、W3E、W3F、W40、W41、W42、および W43 に対して読み取りおよび書き込みます。
- *AT0[4] DWord 配列* - このタグは、アドレス AT0、AT1、AT2、および AT3 に対して読み取りおよび書き込みます。
- *Z1[3] Float Array* - このタグは、アドレス Z1、Z2、および Z3 に対して読み取りおよび書き込みます。
- *Z1[4] Double Array* - このタグは、アドレス Z1 & Z2、Z3 & Z4、Z5 & Z6、および Z7 & Z8 に対して読み取りおよび書き込みます。

指定した配列の長さは、設定済みのメモリのブロックサイズを超えることはできません。

配列がブロック内にある場合、その配列はブロック読み取りの一部として読み取られます。配列がブロック境界を越える場合、配列を読み取ると、その配列のデバイスへの独立した読み取り要求が発生します。

イベント ログメッセージ

次の情報は、メインユーザーインターフェースの「イベントログ」枠に記録されたメッセージに関するものです。「イベントログ」詳細ビューのフィルタと並べ替えについては、サーバーのヘルプを参照してください。サーバーのヘルプには共通メッセージが多数含まれているので、これらも参照してください。通常は、可能な場合、メッセージのタイプ (情報、警告) とトラブルシューティングに関する情報が提供されています。

デバイスのアドレスを読み取れませんでした。| アドレス = '<アドレス>'。

エラータイプ:

エラー

考えられる原因:

1. デバイスとの通信に成功しましたが、応答パケットに誤りがあるか、予期しない長さです。
2. ドライバーはデバイスからの読み取りに必要なリソースを割り当てることができませんでした。

解決策:

1. 接続のパフォーマンスを向上させて、データ損失の可能性を低くしてください。読み取りを再実行してください。
2. 不要なアプリケーションをシャットダウンし、サーバーを再起動してから、もう一度試してください。

デバイスのアドレスブロックを読み取れません。デバイスがエラーを返しました。| アドレスブロック = '<アドレス>' から '<アドレス>'、エラーコード = <コード>。

エラータイプ:

エラー

考えられる原因:

要求での問題を示すエラーコードがデバイスによる応答で返されました。

解決策:

返されたエラーコードによって解決策が異なります。

関連項目:

デバイス応答エラーコード

デバイスのアドレスブロックを読み取れません。| アドレスブロック = '<アドレス>' から '<アドレス>'。

エラータイプ:

エラー

考えられる原因:

1. デバイスとの通信に成功しましたが、応答パケットに誤りがあるか、予期しない長さです。
2. ドライバーはデバイスからの読み取りに必要なリソースを割り当てることができませんでした。

解決策:

1. 接続のパフォーマンスを向上させて、データ損失の可能性を低くしてください。読み取りを再実行してください。
2. 不要なアプリケーションをシャットダウンし、サーバーを再起動してから、もう一度試してください。

デバイスのアドレスを読み取れません。デバイスがエラーを返しました。| アドレス = '<アドレス>', エラーコード = <コード>。

エラータイプ:

エラー

考えられる原因:

要求での問題を示すエラーコードがデバイスによる応答で返されました。

解決策:

返されたエラーコードによって解決策が異なります。

関連項目:

デバイス応答エラーコード

デバイスのアドレスに書き込めません。| アドレス = '<アドレス>'。

エラータイプ:

エラー

考えられる原因:

1. デバイスとの通信に成功しましたが、応答パケットに誤りがあるか、予期しない長さです。
2. ドライバーはデバイスへの書き込みに必要なリソースを割り当てることができませんでした。

解決策:

1. 接続のパフォーマンスを向上させて、データ損失の可能性を低くしてください。書き込みを再試行してください。
2. 不要なアプリケーションをシャットダウンしてから、もう一度試してください。

デバイスのアドレスに書き込めません。デバイスがエラーを返しました。| アドレス = '<アドレス>', エラーコード = <コード>。

エラータイプ:

エラー

考えられる原因:

要求での問題を示すエラーコードがデバイスによる応答で返されました。

解決策:

返されたエラーコードによって解決策が異なります。

関連項目:

デバイス応答エラーコード

デバイス応答エラーコード

エラーコード	説明	考えられる原因	考えられる解決策
0	デバイス番号エラー	指定したデバイス番号またはアドレスが範囲外です。	デバイスの範囲内のアドレスに変更します。

エラーコード	説明	考えられる原因	考えられる解決策
1	命令/コマンドエラー	サポートされていないコマンドが送信されました。このドライバでオープンモデルを使用すると、デバイスでサポートされていないアドレスが使用できます。	デバイスの範囲内のアドレスに変更します。
2	プログラムが未登録	CPU でプログラムが登録されていません。CPU ユニットの RUN/PROG のスイッチが RUN モードになっていません。	CPU にプログラムを追加します。CPU ユニットの RUN/PROG スイッチを適切な RUN モードに切り替えます。
3	予約済み		
4	書き込み禁止	デバイスタイプのデバイス番号が書き込み保護されています。	書き込みが可能なアドレスに変更するか、デバイスのアドレスを書き込みできるように設定します。
5	PLC エラー	CPU ユニットでエラーが発生しています。	CPU ユニットエラーを修正し、要求を再試行します。
6	コメントなし	デバイスタイプのデバイス番号にコメントがありません。	必要な場合、デバイス内のデバイス番号でコメントを登録します。

COM ポートが別のアプリケーションによって使用されています。| ポート = '<ポート>'。

エラータイプ:

エラー

考えられる原因:

デバイスに割り当てられているシリアルポートが別のアプリケーションによって使用されています。

解決策:

1. チャネルに正しいポートが割り当てられていることを確認してください。
2. 現在のプロジェクトのコピーが 1 つだけ動作していることを確認してください。

指定されたパラメータでは COM ポートを設定できません。| ポート = COM<数値>、OS エラー = <エラー>。

エラータイプ:

エラー

考えられる原因:

指定された COM ポートのシリアルパラメータが有効ではありません。

解決策:

シリアルパラメータを確認し、必要に応じて変更してください。

ドライバーの初期化に失敗しました。

エラータイプ:

エラー

シリアル I/O スレッドを作成できません。

エラータイプ:

エラー

考えられる原因:

サーバープロセスには新しいスレッドの作成に使用可能なリソースがありません。

解決策:

各タググループが1つのスレッドを消費します。1つのプロセスでの一般的な上限は約2000スレッドです。プロジェクト内のタググループの数を減らしてください。

COM ポートが存在しません。| ポート = '<ポート>'。**エラータイプ:**

エラー

考えられる原因:

指定されたCOMポートはターゲットコンピュータ上に存在しません。

解決策:

適切なCOMポートが選択されていることを確認してください。

COM ポートを開く際にエラーが発生しました。| ポート = '<ポート>'、OS エラー = <エラー>。**エラータイプ:**

エラー

考えられる原因:

ターゲットコンピュータ上の内部のハードウェアまたはソフトウェアの問題によって、指定されたCOMポートを開くことができませんでした。

解決策:

COMポートが機能していてほかのアプリケーションからアクセス可能であることを確認してください。

接続に失敗しました。アダプタにバインドできません。| アダプタ = '<名前>'。**エラータイプ:**

エラー

考えられる原因:

指定されたネットワークアダプタは、システムデバイスリストで見つからないので、通信用にバインドできません。これはあるPCから別のPCにプロジェクトを移動した場合（かつプロジェクトでデフォルトを使用する代わりにネットワークアダプタが指定されている場合）に起こる可能性があります。サーバーはデフォルトアダプタに戻ります。

解決策:

ネットワークアダプタのプロパティをデフォルトに変更（または新しいアダプタを選択）してから、プロジェクトを保存し、再試行してください。

Winsock のシャットダウンに失敗しました。| OS エラー = <エラー>。**エラータイプ:**

エラー

Winsock の初期化に失敗しました。| OS エラー = <エラー>。**エラータイプ:**

エラー

解決策:

1. 基礎となるネットワークサブシステムでネットワーク通信の準備が整っていません。数秒待ってからドライバーを再起動してください。

2. Windows ソケットの実装でサポートされているタスク数の上限に達しました。Winsock を使用している可能性がある 1 つ以上のアプリケーションを終了してからドライバーを再起動してください。

このドライバーを使用するには Winsock V1.1 以上がインストールされている必要があります。

エラータイプ:

エラー

考えられる原因:

システムで見つかった Winsock DLL のバージョン番号は 1.1 より古いバージョンです。

解決策:

Winsock をバージョン 1.1 以上にアップグレードしてください。

ローカルポートへのバインド中にソケットエラーが発生しました。| エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。

エラータイプ:

エラー

デバイスが応答していません。

エラータイプ:

警告

考えられる原因:

1. デバイスとホスト PC 間の接続が切断しています。
2. 接続の通信パラメータが不正です。
3. この名前のデバイスに不正なデバイス ID が割り当てられている可能性があります。
4. デバイスからの応答を受信するまでに、「要求のタイムアウト」デバイス設定で許可されているより長い時間がかかりました。

解決策:

1. PC と PLC デバイス間のケーブル接続を確認してください。
2. 指定した通信パラメータがデバイスのパラメータと一致することを確認してください。
3. この名前のデバイスのデバイス ID が実際のデバイスの ID と一致することを確認してください。
4. 応答全体が処理されるように「要求のタイムアウト」設定を大きくしてください。

デバイスが応答していません。| ID = '<デバイス>'。

エラータイプ:

警告

考えられる原因:

1. デバイスとホスト PC 間のネットワーク接続が切断しています。
2. デバイスとドライバーに設定されている通信パラメータが一致しません。
3. デバイスからの応答を受信するまでに、「要求のタイムアウト」デバイス設定で許可されているより長い時間がかかりました。

解決策:

1. PC と PLC デバイス間のケーブル接続を確認してください。
2. 指定した通信パラメータがデバイスのパラメータと一致することを確認してください。
3. 応答全体が処理されるように「要求のタイムアウト」設定を大きくしてください。

チャンネルでのシリアル通信エラー。| エラーマスク = <マスク>。**エラータイプ:**

警告

考えられる原因:

1. デバイスとホスト PC 間のシリアル接続が切断しています。
2. シリアル接続の通信パラメータが不正です。

解決策:

1. エラーマスクコードと関連情報を調査してください。
2. PC と PLC デバイス間のケーブル接続を確認してください。
3. 指定した通信パラメータがデバイスのパラメータと一致することを確認してください。

関連項目:

エラーマスクコード

デバイスのアドレスに書き込めません。| アドレス = '<アドレス>'。**エラータイプ:**

警告

考えられる原因:

1. デバイスとホスト PC 間の接続が切断しています。
2. 接続の通信パラメータが不正です。
3. この名前のデバイスに不正なデバイス ID が割り当てられている可能性があります。

解決策:

1. PC と PLC デバイス間のケーブル接続を確認してください。
2. 指定した通信パラメータがデバイスのパラメータと一致することを確認してください。
3. この名前のデバイスに指定したデバイス ID が実際のデバイスの ID と一致することを確認してください。

ドライバーがタグを処理している間はこのページ上のアイテムを変更できません。**エラータイプ:**

警告

考えられる原因:

データクライアントがサーバーに接続してチャンネル/デバイスからデータを受信している間に、チャンネル構成またはデバイス構成を変更しようとした。

解決策:

変更を行う前にすべてのデータクライアントをサーバーから切断してください。

指定されたアドレスはデバイス上で有効ではありません。| 無効なアドレス = '<アドレス>'。

エラータイプ:

警告

考えられる原因:

タグアドレスに無効なアドレスが割り当てられています。

解決策:

要求されたアドレスをクライアントアプリケーションで修正してください。

アドレス '<アドレス>' はデバイス '<名前>' 上で有効ではありません。

エラータイプ:

警告

ドライバーがタグを処理している間にこのプロパティを変更することはできません。

エラータイプ:

警告

デバイス '<名前>' 上のアドレス '<アドレス>' に書き込めません。

エラータイプ:

警告

考えられる原因:

1. デバイスとホスト PC 間の接続が切断しています。
2. 接続の通信パラメータが不正です。
3. この名前のデバイスに不正なデバイス ID が割り当てられている可能性があります。

解決策:

1. PC と PLC デバイス間のケーブル接続を確認してください。
2. 指定した通信パラメータがデバイスのパラメータと一致することを確認してください。
3. この名前のデバイスに指定したデバイス ID が実際のデバイスの ID と一致することを確認してください。

接続中にソケットエラーが発生しました。| エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。

エラータイプ:

警告

考えられる原因:

指定されたソケットの操作中にデバイスとの通信に失敗しました。

解決策:

エラーの発生原因についての説明、および該当する場合の修復方法が記載されている、エラーと詳細のガイダンスに従ってください。

データの受信中にソケットエラーが発生しました。| エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。

エラータイプ:

警告

考えられる原因:

指定されたソケットの操作中にデバイスとの通信に失敗しました。

解決策:

エラーの発生原因についての説明、および該当する場合の修復方法が記載されている、エラーと詳細のガイダンスに従ってください。

データの送信中にソケットエラーが発生しました。| エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。

エラータイプ:

警告

考えられる原因:

指定されたソケットの操作中にデバイスとの通信に失敗しました。

解決策:

エラーの発生原因についての説明、および該当する場合の修復方法が記載されている、エラーと詳細のガイダンスに従ってください。

読み取り可否のチェック中にソケットエラーが発生しました。| エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。

エラータイプ:

警告

考えられる原因:

指定されたソケットの操作中にデバイスとの通信に失敗しました。

解決策:

エラーの発生原因についての説明、および該当する場合の修復方法が記載されている、エラーと詳細のガイダンスに従ってください。

書き込み可否のチェック中にソケットエラーが発生しました。| エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。

エラータイプ:

警告

考えられる原因:

指定されたソケットの操作中にデバイスとの通信に失敗しました。

解決策:

エラーの発生原因についての説明、および該当する場合の修復方法が記載されている、エラーと詳細のガイダンスに従ってください。

%s |

エラータイプ:

情報

<名前> デバイスドライバー '<名前>'

エラータイプ:

情報

索引

%

%s | 28

<

<名前> デバイスドライバー '名前' 28

B

Boolean 14, 16

C

COM ポートが存在しません。| ポート = '<ポート>'。 24

COM ポートが別のアプリケーションによって使用されています。| ポート = '<ポート>'。 23

COM ポートを開く際にエラーが発生しました。| ポート = '<ポート>', OS エラー = <エラー>。 24

D

Double 15

DWord 14

F

Float 15

I

ID 8

IP アドレス 4, 10

K

Keyence KV Ethernet 4

KV シリーズのアドレス指定 15

L

Long 14

LongLong 15

P

PLC 23

Q

QWord 15

S

Short 14

String 15

W

Winsock のシャットダウンに失敗しました。| OS エラー = <エラー>。 24

Winsock の初期化に失敗しました。| OS エラー = <エラー>。 24

Word 14

Word メモリ 11

あ

アドレス '<アドレス>' はデバイス '<名前>' 上で有効ではありません。 27

い

イベントログメッセージ 21

インデックスレジスタ 18

インデックスレジスタ (Z) 11

え

エラー時に格下げ 10

か

カウンタ 11, 17
カウンタの現在の値 17
カウンタ設定値 17

き

キャッシュからの初回更新 9

く

クランプ 14

こ

このドライバーを使用するには Winsock V1.1 以上がインストールされている必要があります。 25
コマンド 23
コメント 23

し

シミュレーション 8
シリアル I/O スレッドを作成できません。 23

す

スキャンしない、要求ボールのみ 9
スキャンモード 8
スケール変換後 14

た

タイマー 11, 17
タイマーの現在の値 17
タイマー設定値 17
タイムアウト前の試行回数 9
タグに指定のスキャン速度を適用 9
タグのプロパティ-スケール変換 13
タグのプロパティ-一般 12

ち

チャンネルでのシリアル通信エラー。| エラーマスク = <マスク>。 26
チャンネル割り当て 7

て

データコレクション 8
データの受信中にソケットエラーが発生しました。| エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。 27
データの送信中にソケットエラーが発生しました。| エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。 28
データメモリ 16
データ型の説明 14
デジタルトリマー 18
デジタルトリマー (AT) 11
デバイス '<名前>' 上のアドレス '<アドレス>' に書き込めません。 27
デバイスが応答していません。 25
デバイスが応答していません。| ID = '<デバイス>'。 25
デバイスのアドレスに書き込めません。| アドレス = '<アドレス>'。 22, 26
デバイスのアドレスに書き込めません。デバイスがエラーを返しました。| アドレス = '<アドレス>'、エラーコード = <コード>。 22
デバイスのアドレスブロックを読み取れません。| アドレスブロック = '<アドレス>' から '<アドレス>'。 21
デバイスのアドレスブロックを読み取れません。デバイスがエラーを返しました。| アドレスブロック = '<アドレス>' から '<アドレス>'、エラーコード = <コード>。 21
デバイスのアドレスを読み取れません。デバイスがエラーを返しました。| アドレス = '<アドレス>'、エラーコード = <コード>。 22
デバイスのアドレスを読み取れませんでした。| アドレス = '<アドレス>'。 21
デバイスのプロパティ - ブロックサイズ 11
デバイス応答エラーコード 22
テンポラリメモリ 17

と

ドライバー 7
ドライバーがタグを処理している間にこのプロパティを変更することはできません。 27
ドライバーがタグを処理している間はこのページ上のアイテムを変更できません。 26
ドライバーの初期化に失敗しました。 23

ふ

ファイルレジスタのカレントバンク 18
ファイルレジスタの連続するモード 18
プロトコル 4, 10

ほ

ポート 4, 10

も

モデル 7

ら

ラッチリレー 16

り

リンクリレー 16

リンクレジスタ 18

ろ

ローカルポートへのバインド中にソケットエラーが発生しました。| エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。 25

漢字

一般 7

概要 4

拡張データメモリ 17

格下げまでのタイムアウト回数 10

格下げ期間 10

格下げ時に要求を破棄 10

高速カウンタ 17

高速カウンタ (CTH) 11

高速カウンタコンパレータ 17

高速カウンタコンパレータ (CTC) 11

作業メモリ 17

作業リレー 16

指定されたアドレスはデバイス上で有効ではありません。| 無効なアドレス = '<アドレス>'。 27

指定されたパラメータでは COM ポートを設定できません。| ポート = COM<数値>、OS エラー = <エラー>。 23

自動格下げ 10

識別 7

受信タイムアウト 4

書き込み可否のチェック中にソケットエラーが発生しました。| エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。 28

書き込み禁止 23

冗長 11
制御メモリ 16
制御リレー 15
生データ値 14
接続に失敗しました。アダプタにバインドできません。| アダプタ = '<名前>'。 24
接続のタイムアウト 9
接続中にソケットエラーが発生しました。| エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。 27
設定 4
線形 13
通信タイムアウト 9
通信パラメータ 10
通信プロトコル 4
動作モード 8
読み取り可否のチェック中にソケットエラーが発生しました。| エラー = <エラー>、詳細 = '<information>'。 28
内部補助リレー 16
入力/出力リレー 15
符号なし 15
負数化 14
平方根 13
名前 7
命令 23
予約済み 23
要求のタイムアウト 9
要求間遅延 9